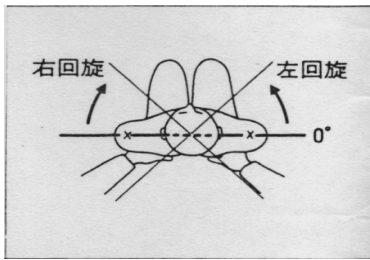
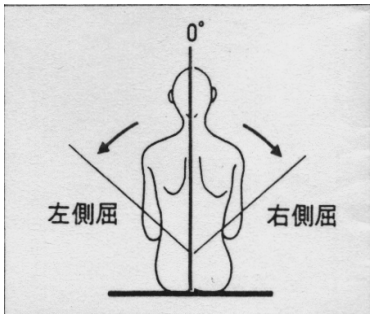
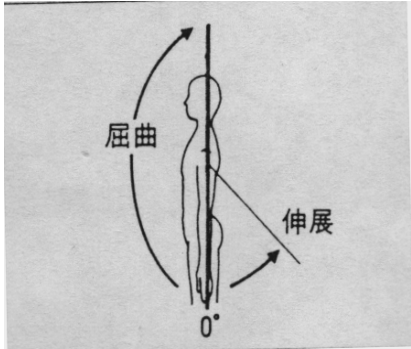
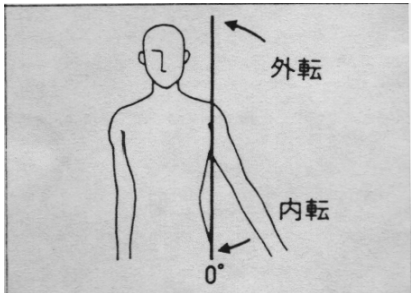
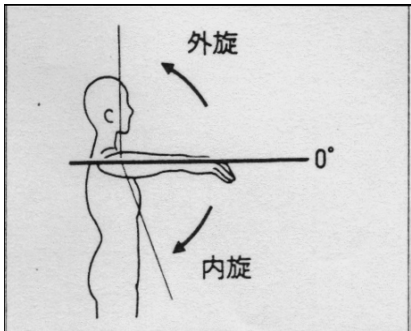
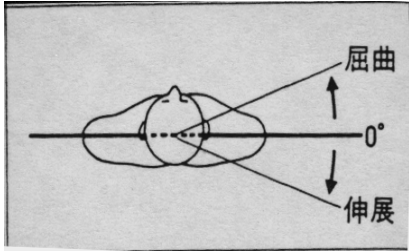
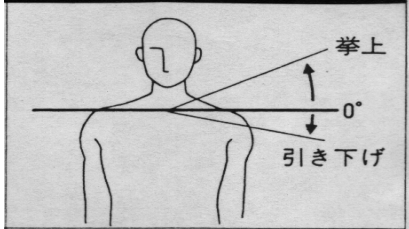
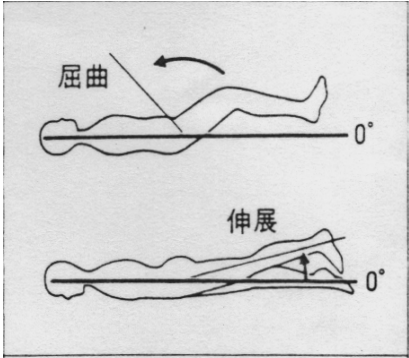
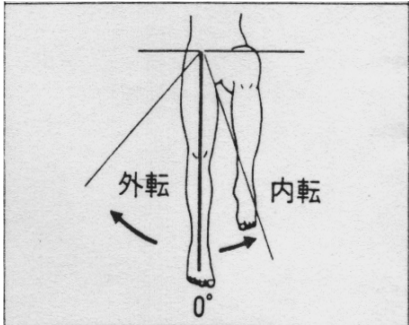
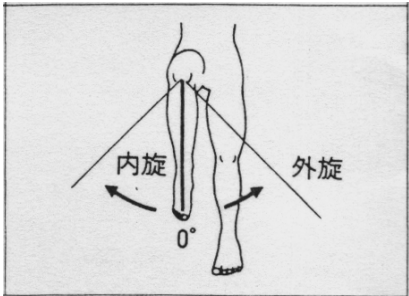


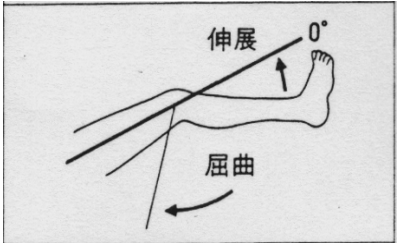
Ajari&CUSH 可動域計測姿勢アライメントマニュアル ver2.0

検査場所	参考可動域角度	基本軸/移動軸	測定肢位注意点	基本軸・移動軸
胸腰部				
回旋 rotation	右 40 左 40	<u>基本</u> : 両側後上腸骨棘を結ぶ線 <u>移動</u> : 両側の肩峰を結ぶ線	座位で骨盤を固定して行う	
側屈 lateral bending	右 50 左 50	<u>基本</u> : ヤコビー線の中点にたてた垂直線 <u>移動</u> : 第1胸椎棘突起と第5腰椎棘突起を結ぶ線	体幹の背面で行う。腰掛座位または立位でおこなう。	
肩部				
屈曲（前方挙上） flexion	180	<u>基本</u> : 肩峰を通る床への垂直線 <u>移動</u> : 上腕骨	前腕は中間位とする。体幹が動かないように固定する。脊柱が前後屈しないように注意する。	
伸展（後方挙上） extension	50			
外転（側方挙上） abduction	180	<u>基本</u> : 肩峰を通る床への垂直線 <u>移動</u> : 上腕骨	体幹の側屈が起こらないように90°以上になったら前腕を回外することを原則とする。 内転: 20°または45°肩関節屈曲位で立位で行う	
内転 adduction	75			
外旋 external rotation	90	<u>基本</u> : 肘を通る前額面への垂直線 <u>移動</u> : 尺骨	前腕は中間位とする。肩関節は90°外転し、かつ肘関節は90°屈曲した肢位で行う。	
内旋 internal rotation	70			

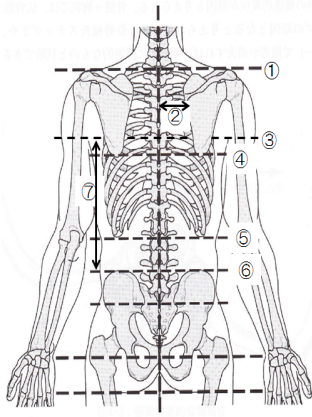
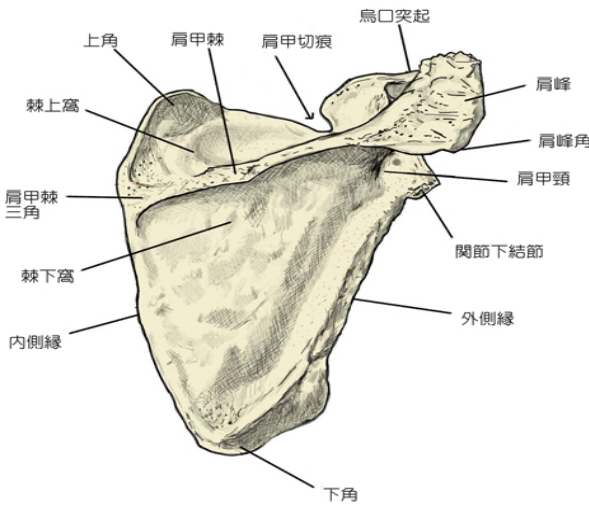
肩甲帯				
屈曲 flexion	20	基本：両側の肩峰を結ぶ線		
伸展 extension	20	移動：頭頂と肩峰を結ぶ線		
挙上 elevation	20	基本：両側の肩峰を結ぶ線	背面から測定する	
引き下げ depression	10	移動：頭頂と肩峰を結ぶ線		

股部（下肢測定）				
屈曲 flexion	125	基本：体幹と並行な線 移動：大腿骨（大転子と大腿骨外踝の中心を結ぶ線）	骨盤と脊柱を十分に固定する。屈曲は背臥位、膝屈曲位で行う。伸展は、腹臥位、膝伸展位で行う	
伸展 extension	15			
外転 abduction	45	基本：両側の上前腸骨棘を結ぶ線への垂直線 移動：大腿中央線（上前腸骨棘より膝蓋骨中心を結ぶ線）	背臥位で骨盤を固定する。下肢は外旋しないようにする。内転の場合は、反対側下肢を屈曲挙上してその下を通して内転させる。	
内転 adduction	20			
外旋 external rotation	45	基本：膝蓋骨より下ろした垂直線 移動：下腿中央線（膝蓋骨中心より足関節内外踝中央を結ぶ線）	背臥位で、股関節と膝関節を90°屈曲位にして行う。骨盤の代償を少なくする。	
内旋 internal rotation	45			

膝部

屈曲 flexion	130	基本：大腿骨 移動：腓骨（腓骨頭と外踝を結ぶ線）	屈曲は、股関節を屈曲位で行う	
伸展 extension	0			

姿勢アライメント評価マニュアル

正中面（冠状面）評価について： 指標線： 後部正中線、両肩峰線①（肩甲骨上角線）、腋窩線③、 肩甲骨下角線④、棘突起から内側縁までの距離② 第12肋骨線⑤、腸骨稜線⑥ （参考：大転子線 姿勢指標： 正中線からのずれ（脊椎の歪み） 肩峰の位置（肩の位置 ずれ） （上）下角の左右位置 （肩甲骨左右のずれ） 腸骨稜の位置（骨盤のずれ）	骨盤 - 胸郭のアライメント  ①肩峰（Th1~2） ②棘突起から内側縁までの距離（5±2.5cm） ③腋窩 ④下角（Th7~8） ⑤第12肋骨 ⑥腸骨稜 ⑦腋窩から腸骨稜までの距離
肩甲骨位置名称図	

正中線：後ろによる評価

後頭隆起—椎骨棘突起—殿裂

矢状面からみる正中線

耳垂—肩峰—大転子—膝蓋骨後部—外果の前方

指標：

耳垂位置：頭部の位置ずれ

肩峰位置：肩姿勢の位置

大転子：骨盤の歪みはどうか

腹部：歪みはどうか

